

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

城西中学校区	校番 23	福山市立城西中学校
	最終更新日	2026年(令和8年)4月7日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会の主な内容 ○こどもたちが意欲的に授業や行事に取り組んでいる様子が見られ、一定の成果が出ている ○地域とのかかわりを重視した学習活動に取り組み、情報発信を積極的にしている ○ボランティア・スタッフとしての参加があるなど、こどもたちの地域行事への参加が増え、今後にも期待したい ○より多くのこどもたちが地元の学校で過ごせるように、魅力づくりを進めたい	児童生徒の現状 ○こどもたちの「学び」に向かう姿勢は、主体的・協働的になりつつある ○学習活動を通して、地域のよさをとらえ、よりよいまちづくりについて考えるこどもたちが増えている ○「基礎学力と基本的な生活習慣の定着」をめざし、学校での「学び」と家庭学習とのつながりをつくる ○こどもたちの気持ちに寄り添い、状況改善に向けて、伴走的な取組を進める	育成する 資質・能力 めざすこども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として 統一した取組等	コミュニケーション力・表現力・忍耐力 地域に愛着と誇りをもち、心豊かにたくましく生きる子ども ☐ 自己肯定感を高める（児童会・生徒会の合同活動・中学校オープンスクール） ☐ コミュニケーション力・表現力・忍耐力をつける（幼保小中連携教育・合同授業研究） ☐ 健康への意識を高め、体力向上を図る（体力向上・生活改善の取組） ☐ 学校、地域一体で行う取組を推進する（総合防災訓練等）
---	--	---	---

III 自校

学校教育目標

心豊かに、たくましく社会を生き抜く力の育成

現 状

生徒、及び、職員を対象とするアンケートでは、以下の状況である
〔生徒〕 (%)

項 目	2024年度	2025年度
所属している学級は温かい雰囲気がある	87.0	96.0
困ったときに相談できる相手がいる	94.5	97.1
困ったときに「自力解決」ができるよう努力することができる	90.1	84.4
学校生活は楽しい	89.6	92.0

〔職員〕 (%)

困ったときに相談できる人がある	100.0	100.0
自分の挑戦に対して協働してくれる仲間がいる	100.0	80.0
本音を気兼ねなく発言でき、自分の個性が認められている	92.3	73.3

この項目は、生徒、及び、職員の「学校満足度」の向上につながる内容であるとともに、地域から信頼を受ける学校づくりを果たしていく重要な要素だと考え、引き続き、指標として焦点を当てていく。教育活動を丁寧に進め、生徒、及び、職員の「元氣」と「笑顔」を育み、積極的な情報発信を通して、地元子どもたちの 80%以上の入学を目指す
2024年(令和6年度) 68.2%(73/107) 2025年(令和7年度) 76.2%(77/101)
2026年(令和8年度) 75.0%(66/88)

めざすこども像

☐自己指導能力を育む生徒
～「自分のために、みんなのために」と考え、行動する生徒～

☐自分を理解し、お互いを認め合い、高め合う

☐自ら疑問や課題を見つけ、解決に向け、自分や仲間と考え、学び続ける

☐自分たちの生活をよりよくするために、仲間と協力し、粘り強く取り組む

研究

テーマ

内容等

生徒が自らの成長を実感できる授業づくり
～学習意欲を高める評価とフィードバックの工夫～

形成的評価と具体的なフィードバックの実施による授業改善

めざす授業の姿

- ・ 学習活動が主体的・自律的である
- ・ 明確な課題意識をともなった活動である
- ・ 目標達成、及び、課題解決への営みが持続されている活動である
- ・ 目標達成、及び、課題解決に役立つ情報に敏感になっている
- ・ 目標達成、及び、課題解決に見通しを持って取り組み、期待が持てる活動である
- ・ 活動の経過とともに、はっきりと成果物などの変化がある

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
7	主体的・対話 による学習意 欲と学力の向 上	★	継 続	生徒が自らの成長 を実感できる授業 づくり	○単元・授業ごと に「できるように なること(わかる ようになること) 」を提示し、 振り返りを充実 させる ○「何が良くなっ たか」を具体的に 伝え、比較対象 を「過去の自分」 に、「前より できるようになっ た」を実感させ る	■アンケート「先生 は、あなたの良い ところや、前より できるようになっ たところはどこか を伝えてくれる」 肯定的評価70% ■アンケート「お互 いに協力しなが ら課題の解決に 取り組んでいます か」肯定的評価 前年度以上 ■学力調査正答率 40%未満の生徒 の割合を前年度 以下にする								
6	自己指導能力 の育成	★	継 続	誰もが安心して 生活できる学年・ 学級集団の確立	○活動を通して生 徒どうしをつな ぐ取組を充実さ せる ○生徒との会話を 積極的に進め、 生徒理解を図 る。また、面談ウ ィークを学期に1 回実施する ○事実確認等の 初動を重視し、 指導体制を機能 させる。保護者、 地域、関係機関 等との連携を強 化する	■生徒指導上の 諸問題の出現 率を前年度以 下にする ■長期欠席者(不 登校)の出現率 を10%以下にす る。 ■「友人や先生 は、あなたの良 いところを認め てくれている。」 「所属している学 級は温かい雰 囲気がある」 「困ったときに相 談できる相手が いる」 「学校生活は楽 しい」について 95%以上にする								

[illegible]

[総合評価の評価基準]

評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評価点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評価点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。